

「成人の日」におもう

樋口恵子

「成人の日」をむかえて、私はいままともいいようのない複雑なきもちでいっぱいです。過ぎ去った十代への感傷や世話になってきた親や社会への感謝。その反面では、大人の社会にいたく不安感やこれから置かれる自分の立場などが私の小さな胸の中に入り乱れるのです。はたちの声をきくまではこんな心境になることを想像もしなかった。だから「成人おめでとう」と同じに少しも変えないのにきゆうに大人になってしまったようなきもちにじつは面喰っていましたのです。成年となって一人前の社会人としての権利を与えられ、そして義務を負わされることになったわけですが、なんだかきつねにつまされたみたいで、いつのまにかはたちになってしまった自分に、はたして大人の社会に仲間入りする自信があるのかないのか当惑してしまふのです。

子どもの頃、私は大人はすばらしく立派でそして偉いのだとおもひ、はやく大人になりたいと憧れたことがありました。ところが私はいま自分が「成人」といわれてみて、子ども

の頃えがいていた大人のイメージの何十分の一も持ち合わせていないことに気がつき、世の先輩の大人にはコンプレックスを感じてしまひそうです。また成年に達したばかりなのでとてもまだ自信と責任をもった大人にはなれないのですが、十代の頃にはばく然と世の中に大きな望みや理想を求めて現実には反抗したころもあったのですが、それよりもまず、巨大な複雑なことにちのちの社会のしくみの中に、自分の人生をどうきりひらいていくかじっくりと考え、自分を見失なわれないようしっかりとめて一歩一歩勇気と自信とそして責任感をもった人間像に近づきたいとおもっています。

私たちは、昭和十六年支那事変や大東亜戦争で毎日戦争で明け暮れていた時代に生まれました。が、戦争も激しくなり、國民は米を作りながらそれを服一杯食べることもできず、都会では手当たり次第に食糧を盗み取られても飢餓となり、父や兄は戦争にいつてしまつて母親と老若りとなり、子どもばかりの家庭。そして戦争となりその後の荒蕪した親戚縁者景な世の中で私たちは子どもたちがらもこのゆとりなどな

幼なき日の私たちの思い出に暗く悲しい印象を焼きつけてくれました。私たちが小学校へ通うころになってようやく世の中が復興しはじめましたが、しかしまだ学用品の買えない子や冬でも寒足の子もたくさんいました。敗戦後のことが知らない私たちはこういうものだともい、さほど気にもかけず皆んなやんちゃで元気に育てきました。世の中がすっかり平和をとりもどし繁栄をつづけているこんにちでは、過去は遠くわすれ去られようと思いますが、私はいまはたちとなって私たちの育って

きた時代をふり返ってみて、そこに大きな意味の含まれていることを知りました。私たちは大人の人々の数知れぬ努力と尊い犠牲の中に人間の方でよい生命を知ると共に、これから私たちの前途になお多くの苦難があることを自覚し、はたちの胸に歴史を深く刻んで如何なる障害にぶつかっても二千年前に「成人」をむかえた人たちにくらべればどんなにかしあわせであるかをよこるび、勇氣と自信と責任感のある大人になることへの努力を試みたいと思っています

昭和十六年、即ち大東亜戦争がぼつ発した年に生まれた我々をいろいろと歴史的に結びつけてらぬぬる人たちが多い。当時の帝國主義による上からの強圧を背景とする社会情勢と、こんにちのとき自由の旗印名儀のもとに、狂奔放蕩の世の中に育てきたわれわれ、それはあたかも天と地ほどの相違のある社会に立脚しているから、こゝろさななのかもしれぬ。現代を生きようとするわれわれを注視しての幾多の先輩諸氏の批判もさまざまなのがある。私はい

成人を迎えて

大島 巖

ま成人となった喜びを執筆する機会に、自分なりきの思考のもとに成人の喜びと、それに感知するものを列記させていたのだとおもつ。

まずなんといっても、社会的に認められた喜びと満悦の実感感としてあらわれたのが、参政権の取得であったことは申すまでもない。昨年暮、村長選挙に一票を投じたときの心境は、これだけで自分も一社会人として認められ、国からの権利を一票に託して堂々と政治に参加できたのだと、心にしみて感じたもので

成人を迎えて

大島巖

あった。このときの感慨は、いまおもい返してもさらに新たなものとなって、私をして成人となった実感を深く自覚させるのである。

とかく、権利のみ主張して義務と責任感を忘れがちだといわれるわれわれではあるが、そうした中であっても社会的に認められ、多くの人たちの祝福を受け、ただ優越感だけでこれにたえるのでなく、かつて経験しなかった誇りと自尊心とを不安のつる中にも喚起させられるのは、われわれ成人をむかえた者みんなの心境とおもう。なにごとにも両親や隣人に頼りきっていた生活から一歩前進して、自から苦しみ努力し、思索して行動して、その上で責任をとらねばならぬ生活はどちらかといえば、いままでの甘やかされた生活の放擲さに、夜明けの露を購らせると同時に大いに努力せよと振起させられるものがある。それだけに正確な判断力と決断力を必要とされ、まずまず学習への意欲が要求されてくるものと痛感する。ただいたすらにその日その日を安易に暮らして行くのであるならば、至極気楽なものだが、我々に大人の社会と日進月歩の社会の波がつねにとりまいてゐる。これを無視しては生活できるものでなく、まして一個の社会人としての進歩発

展などは考えられない。ただ一人のみが独走してはいけない。みんな協力し相互扶助の精神を保ち、いたわりあいつつ対峙していかなければならないと思う。それはとりもなおさず常に我々は一人では成立しなく、大きな社会機構内の一個の人間であり、その個々の者が集合してはじめて社会を形成しているのであることを念頭に置いて、相手の立場を尊重して自己の主張を通さなければならぬ考え方に通ずるものと思う。やむとするとの疎遠となりがちな隣人との交際等も、できることなら青年らしい若さで自分の赤裸々の姿に誇張なく、ごく自然の親しさを示して接していきたいとおもう。どのような時勢にあつても、あくまでも自己の判断を大切に、しすかに己を眺めて行動に移れるような人間になりたい。そしてそれがやがてはわれわれが教育をうけてきた根底にづらなっているものと信ずる。

法律的にも社会的にもようやくにして一人成として認められ、参政権をも取得できたわけだがこれからほんとうの意味でわれわれの社会人としての第一歩だ。

一年生として謙虚な気持ちで不断な探究心持続と目上の人たちの意見、助言等をバックボーンとしてますますはばたかな

衛生 二月のノ干

—
—
—
—
—

- 1 運営委員会
- 2 被保険者課
- 3 受胎調範指導
- 4 母子対策協議会
- 5 妊婦検診
- 6 乳児体重測定
- 7 栄養調査報告会
(調査地区のみ)
- 8 栄養改善指導
- 9 滞納整理
- 10 衛生
- 11 予防接種
- 12 四バテ接種

イッタイこの地区の
畜産はどうなるか

農業基本法ブームがまきおこした成長産業が、ヤレ産地だ、ヤレ果樹だとの盛んに叫ばれてこの一、二年は過ぎ去った。指導者も農家も、この成長株を見逃すわけではない。なかでも果樹は一部の果樹を除いては不可能に近いから所得増大の対象として産地を選び、漸進的ではあるが、それぞれすゝめてはみものの、最近になって頭を云々するものは、果してこれでよいのか、今後一体どうなるのか、そんな悩みがつきない。零細規模経営のこの地帯で、どんな考え方で産地をすめたたならよいのか、その解決の一部ともなれば幸いである。

畜産は今後の成長部門

近年、畜産物生産は農産物生産の実情。

産の中でもっとも順調な伸びをしめして来ていると云ふ。

しかし、このように畜産物の生産はよく伸びてきているとはいふものの、これと國民一人一日あたりの消費量という点からみると、昭和三十五年の生産量は、生乳はチョウで三パイ弱、食肉は小指のさき程度、卵は五日に一個程度しかあたらず、まだ十分といふには、ほどとおい。そして、畜産食品の供給のバランスを保つために、乳製品と食肉を外国より輸入している。

さて近年のように毎年消費量を生産量共に急激に伸びるといふことは、一口に云うと、経済力の成長にともない國民の所得水準が増大し、畜産食品の消費水準が向上したことにあつて、このことができよう。

今後一瞥、経済力の成長にともない畜産食品の需要は増大し、昭和四十五年頃には、現在より生乳で五倍、食肉三倍、卵三・二倍に増えると云ふ。

この見とおし通りいかほどか、いづれにせよ消費の増大は



中部地区
農業改良普及所

しかし現状の問題は多い

このように畜産は成長産業であり、草地、畑地が多いが、自然的、社会条件的のわるい当地に於ては、経営内に所得増大の重要部門として畜産を取り上げなければならぬことは勿論だ。

とある程度、購入飼料を大に求めねばならない。その飼料も最近では草上り気味、肉、卵乳など、その生産物の価格も安定だ、ましては最近の努力

ヤツパリ重

ヤツパリ重要な畜産

しかし、自立経営の達成に産
摩を役立たせようと、生産構造
を改善、いわゆる多頭飼育によ
つて畜産所得を増大しようとし
ても、色々の問題が残る。

密細なこの農業に於て、この
多頭飼育するための家畜の購入
資金、畜舎資金は一体どうした
らうのか、又、多頭飼育となる

このように、畜産所得増大
は破らねばならない、いくつ
の力がある。国、県など、
つと山州地の社会的、自然的
件の不利を是正すべく施策を
えて貰わねばならないことは
論であるが、農家自身も、も
と経営改善に努力が必要とさ
るのではなからうか、或る人



馬場、富井豊平さんの6頭肥育舎

畜産農家の芽生え

句から畜産振興事業団により豚肉を買い入れるなど、価格安定対策にのり出した。

資金面も、昨年より農業近代化資金制度により、年六分五厘で必要資金をばしつける。

飼料価格も生産費引き下げのため、飼料対策が模試されている。これとて、内容的に不満足な点も多々あるが、少しなりと

この地区でも、農家自らの努力で、新しい畜産農家への芽生えがある。

和生肥育では、水沢村馬場の富井豊平さんの常時六頭肥育で、昨年は十三頭程出荷、又馬場、太田島を中心とした南部畜産組合にも常時二、三頭飼育者も出てきた。

る。

中里村に於ても、農協の貸付事業などにより、常時一〇頭位の農家が数戸、又開拓地開墾部落なども積極的、次にまた実現はしておらないが、員野、中島政幸さん等五人による、年間二、三百頭比荷を自給しての共同化の計画など、新しい畜産農家の芽生えも始まっている。

